

ま え が き

「信州大学環境科学年報 第16号」が刊行されることになった。本号においても地域に根ざした環境問題に係わる幅広い内容の総説、原著論文、報告が寄せられており、広く活用されることを期待したい。本研究会の年報は号を重ねるにつれて配布先が増え、学内外の関心が高まって来ていることは、関係者の一人として喜びに耐えない。

環境問題は既に地球規模、組織で対応しなければならない程の深刻さを持つに至った反面、個人のレベルでは、ともすると自己の行動が環境の悪化につながっている事の自覚が少ないか又は全く無い場合が多い様に思われる。本学の位置する長野県は自然資源の豊富さゆえに、より一層環境保全に意をつくさねばならない立場にある一方、生活の利便性、快適性の追求が先立ち易い。そこに発生する諸問題の解決には自然科学分野だけでなく、人文・社会分野からのアプローチが必要な場合が次第に増えつつあるのではないか。その様な事から本会に人文・社会系の会員の増加が望まれる。

本研究会の活動として研究・調査活動を活発に行うのはいうまでもないが、会員相互のコミュニケーションの活発化も重要である。この観点から本号では研究テーマや関心のあり処等をも盛り込んだ会員名簿を掲載することとなった。大いに活用したいものである。

この年次報告を刊行するに当たって、特定研究費の交付を頂いたことに深甚の謝意を表す。

1994年3月

信州大学環境科学研究会

世話人 佐 納 良 樹